イタリアの中学校最新事情

堂満　葉子（ミラノ在住）

はじめに

私がイタリアに移り住み、22 年が過ぎた。日本を出たのが 23 歳だったので、人生の半分をこの国で過ごしたことになる。私の 2 人の子どもは日本で生まれたが、二人とも生後 5 か月でこの土地に渡り、現地の公立の幼稚園、小学校を終え、現在は公立（国立）の中学校に在籍する。

日本と違い、イタリアでは小学生の学校への送り迎えが保護者に義務付けられているので、保護者と学校のつながりは日本のそれより濃厚に感じられた。子どもが中学に入学すると保護者が学校に赴くのは、「保護者会」「個人懇談」などと限られる。よって小学校の頃に比べると学校と保護者の関係は薄くなるが、外国人の一保護者として、イタリアの中学校を紹介したい。

いくつかの選択

中学に入学するときの手続きとして、いくつかの選択事項がある。

一つは、宗教の授業の選択である。小学校でも、高等学校でも同じように、宗教の授業を受けるか受けないかの選択の義務（または権利）がすべての生徒に与えられる。授業の内容は、ほとんどがカトリック教であるが、これはカトリックの洗礼を受けた子どもたちが教会で受ける授業とは違い、世界全体の宗教について勉強することを目的とされている。したがって、授業を選択する際に「カトリックの洗礼を受けているか否か」は全く基準にはならず、また「小学校の際に宗教を選択していたか否か」も、基準の対象にはならない。基準は「家庭の方針」が第一であり、イスラム教徒の生徒のほとんどは履修を希望しない。イタリア人家庭でも「宗教」を拒否している家庭は、履修させない場合もある。

＜二人のお子さんが通っている I.C. Salvatore Quasimodo 中学校。この学校は小学校と同一学区を形成しているので、校長は 1 人である。左のマークは同校のマーク。＞

http://www.ic-quasimodo.com/index.php?option=com_content&view=article&id=10&Itemid=72

＊注　嶺井正也

次に「リエントリ」の選択である。「リエントリ」とはイタリア語で「再び帰ってくる」という意味がある。「リエントリ」の日は午前中の授業を終え、一度自宅に帰って昼食を済ませ、再び学校に帰って授業を受ける日である。つまり、「午後の授業もある日」ということになる。普段中学校の授業は朝 8 時に始まり、ホームルーム（朝の会）などなく、いきなり授業が始まり、10 分の休憩時間を２回はさんで 13 時 30 分に終わる。「リエントリの日」はそれから 14 時 30 分から 16 時 15 分までもう一度授業を受ける。

入学時にはこの「リエントリ」の日を週に何回受けるかという選択をするのである。選択は週に１回、２回、３回がある。私の子どもたちの中学校では、1 学年 5 クラス中 1 クラスが「リエントリ」１回で、その他４クラスは２回のクラスである。「リエントリ」２回を選択する生徒がほとんどであるが、「リエントリ」の回数は地域によって傾向が違うようである。地価が高く「高級住宅街」と呼ばれる地域では子どもに習い事をさせる保護者が多く、そのような地域では「リエントリ」が１回の生徒が多いそうだ。

外国語選択事情

もう一つの選択事項は、第二外国語の選択である。イタリアの中学校の教科はイタリア語、数学、理科、歴史、地理、第一外国語（英語）音楽、技術、美術、体育、そして第二外国語がある。第二外国語は、フランス語、スペイン語、ドイツ語、上級英語の中から選択される。ほとんどの生徒は上級英語を希望する。その理由は、高等学校進学に関係する。イタリアの高等学校は、古典高校、理工系高校、語学系高校、芸術高校、工業高校、商業高校、職業訓練学校などがあるが、比較的優秀な生徒が進学する古典高校、理工系高校では英語の他はラテン語や古代ギリシャ語などの古典語学が履修され、スペイン語、フランス語、ドイツ語は履修されない。したがって、中学の３年間一生懸命それらの語学を勉強しても、高校に入ったら、塾にでも行かない限り続けることができないのだ。そのような理由で第二外国語として上級英語を希望する生徒が多いのだが、「英語の先生が足りない」「フランス語の先生が余っている」という事情で、ほとんどの生徒がフランス語またはスペイン語の選択を余儀なくされている。ちなみにうちの子どもたちの中学は１クラスがスペイン語、その他４クラスがフランス語である。

そのため、イタリアの中学校のクラス分けはとても複雑である、事務局は生徒たちが選択した「リエントリ」「第二外国語」を考慮しながらクラス分けを実施しなくてはならない。うちの子どもたちにはなかったケースだが、クラス分けの都合で、希望していた「リエントリ」の回数、「第二外国語」を変更させられた生徒も多くいたということである。

彼らの中学は特別に、リエントリのない日に、３年生になったら「ラテン語」の補習がある。これは古典高校及び理工系高校に進学する予定の生徒を対象として、「高校進学の準備」として、教師の好意で行われている。人数は３０名に限定され、イタリア語文法のテストで上位３０名の

み受講できる。この中学は３年生だけが対象であるが、この補習を１年生から実施している中学校もある。

イタリアの学校は、高等学校ではもちろんであるが、小学校、中学校にも落第の制度がある。長女が入学した際にも、落第してきた上級生の男子生徒がクラスに一人おり、２年生に進級する際には２名落第、３年に進級するときには３名が落第した。

家庭の経済負担

次に、国立の中学に通わせる場合の保護者の経済的負担について触れる。

話はそれるようであるが、まず、イタリアの税務所が発行する「ISEE 証明書」について説明する。ISEE とは IndicatoredellaSituazioneEconomicaEquivalente の略で、「経済状況等価値を示すもの」という意味がある。https://servizi.inps.it/servizi/isee/default.htm
つまり、その家族がどのくらい生活が苦しいか、または裕福かを示す証明書である。

ISEE 証明書は家族単位で発行される。発行の為の提出書類は家族全員の税金番号（出生と共に発行され、これが実質的な国勢番号ともいえる）、一番最近の家族全員の源泉徴収書、前年 12 月 31 日の夫婦の貯金残高証明、持ち家のローンを払っている場合はそのローンの支払い証明、または賃貸アパートに住居を持つ場合は家賃が明記された賃貸契約書である。基本的に支払が終わった持ち家に住んでいる家族は ISEE 証明書を受け取ることができない。

ISEE 証明書には、提出された書類をもとに、家庭の収入、扶養対象の人数、家賃（または家のローン）などを参照に 1 年間の ISEE 指数が示され、発行された日から 1 年間有効である。

その ISEE 証明書をもとに、子どもの保育園での保育料、幼稚園から中学まで（公立に限る）の給食費、国立大学の授業料、医療費など、様々な公的な支払が考慮される。

先ほど説明した「リエントリの日」は、午後の授業が正規の授業であるため、（補習ではない）希望者のみ、給食のサービスが受けられる。給食費も ISEE 指数を考慮して設定される。以下が中学の給食費の料金表である。

表１

ISEE 指数	年間給食費 １リエントリ	年間給食費 ２リエントリ	年間給食費 ３リエントリ
2000，00 ユーロまで	無料	無料	無料
2000，01－4000,00 ユーロ	46，93 ユーロ	93，86 ユーロ	140，80 ユーロ
4000,01-6500,00 ユーロ	68.41 ユーロ	136.82 ユーロ	205.23 ユーロ
6500,01-12500,00 ユーロ	93．86 ユーロ	187.73 ユーロ	281.59 ユーロ
12500,01-27000,00 ユーロ	120.30 ユーロ	240.63 ユーロ	360.94 ユーロ
27000,01 ユーロ以上 （または ISEE]未提出の場合）	135.23 ユーロ	270．45 ユーロ	405．68 ユーロ

http://www.milanoristorazione.it/files/Files_PDF/Altri_Pdf/un_posto_a_tavola_2013_2014.pdf

ISEE 証明書は自然学校（日本でいうところの林間学校のようなもの）での参加費用などの設定にも利用される。

日本の子ども手当ほど大判振る舞いではないが、公立学校に通う生徒の為に「Dote Scuola」というロンバルディア州が年に一度、配布する手当がある。

http://www.cultura.regione.lombardia.it/cs/Satellite?c=Redazionale_P&childpagename=DG_Cultura%2FDetail&cid=1213498244520&packedargs=NoSlotForSitePlan%3Dtrue&pagename=DG_CAIWrapper

これは生徒が勉強に必要な文具、及び書籍を買うための「商品券」であり、この配布に当たっても、ISEE 証明書の提出が必要となる。ISEE 指数と配布される「Dote Scuola」の金額の関係は以下である。

表２

ISEE	小学校	中学校	高等学校
0-5000	110 ユーロ	190 ユーロ	290 ユーロ
5001-8000	90 ユーロ	150 ユーロ	230 ユーロ
8001-12000	70 ユーロ	120 ユーロ	180 ユーロ
12001-15458	60 ユーロ	90 ユーロ	140 ユーロ

この第２表は、「授業料を必要としない公立学校」に通う生徒の為に設けられた「Dote Scuola」であるが、「授業料を必要とする公立学校、及び私立の学校」通う生徒の為のそれは別の金額の「Dote Scuola」が支給される。

これらとはまた別に、「優秀な成績を収めた生徒」に支給される奨学金制度の「Dote Scuola」もある。この奨学金にはとても高い成績が要求されるので、奨学金自体がないのにも等しいが、中学生対象のものだけ紹介する。

「ISEE 指数が 20000 ユーロ以下の生徒に限り、中学卒業試験の成績が 9 以上の者には 300 ユーロ支給され、10（満点）の者には 700 ユーロ支給される」

この成績はミラノ市でも 10 名の生徒が該当するかどうかと思われるほど、厳しい基準である。

中学校の教科書は有償

尚、教科書は基本的に有償である。これに関しても、学校に ISEE 証明書を提出した生徒は、ミラノ市より教科書割引券を受け取ることができる。ちなみにこの Cedra と呼ばれる割引券は、2 年前までは生徒全員に配布されていたが、2 年前から ISEE を提出したもののみに限られるように

なった。以下が教科書代と割引券を示す表である。

表3

	教科書代	割引券
入学時	約250ユーロ	150ユーロ
2年進級時	約150ユーロ	70ユーロ
3年進級時	約150ユーロ	49ユーロ

教科の担任によって、どの教科書を選択するかが決定される。学校ごとはもちろん、クラスによっても教科書が違うので、教科書代は微妙に違ってくる。

尚、この教科書を購入する際にも、「DoteScuola」の商品券を利用することができるので、ISEE証明書を提出している生徒の家族は、ロンバルディア州からの「Dote Scuola」とミラノ市からの「教科書割引券」で、教科書代のほとんどを賄うことができる。

高校進学と進路指導の状況

次に、高校進学の事情を説明したい。イタリアの高等学校進学は日本のような「受験制度」はほとんどない。ミラノ市内の公立学校に限ると、「入学試験」を実施しているのは「理工系高校」１校。「語学系高校」１校である。日本と違い、イタリアでは「受験」を目標に頑張るのではなく、「進級」が目標の対象となる。高校入学の登録は3年生の1月と2月の2か月間で行われる。

余談であるが、その方法が今年からオンラインになった。（来年からは紙代の倹約の為通知表もオンラインになるといわれている）それに合わせ、３年生の１１月頃から、担任による進路指導が始まる。１２月には、生徒がどのタイプの高校に向いているか、またどの分野（人文学分野、理工分野、技術分野、外国語分野、表現の分野、すべてにおける研究分野、実践的なオペレーション分野、情報分野）が得意分野かなどが記載された正式文書が渡され、これを希望の高校に提出される。「入試」は実施しないが、希望する生徒が多く、全員を受け入れることのできない人気校は、この文書を生徒の選択の基準とする高校もある。

先ほど挙げた得意分野の項目について厳しい現実であるが、最後の３つの項目はイタリア語も数学も外国語もできない、あまり取り柄の生徒のためにお情けに作られた項目であるため、実際なにが得意なのかわかりにくいグレーな項目である。どうやらこの文書は「通知表」よりも保護者にとって重要なものらしく、これを受け取る懇談日は緊張した面持ちの保護者たちの様子が見られた。

中学校卒業国家試験

まだ我が子が体験していない内容になるが、イタリアの中学卒業は国家試験の結果で許可され

る。
まず、例年通り、６月上旬に通知表を渡され、そこで中学の教師により「及第」か「落第」の判断を下される。「及第」の通知表を渡された生徒のみが、「中学卒業のための国家試験」を受ける権利を得られる。その試験は外部の審査官によって実施される。内容は、イタリア語、数学、英語、第二外国語の筆記試験。そして卒業論文の提出。その卒業論文の内容に対する口頭試問。

卒業論文は３月下旬から６月にかけて教師の指導のもと、下準備される。内容は、一つのテーマを決め、それに関して、歴史、地理、音楽、美術など幅広い分野が絡んで書かれていないと「失格」になる。とても厳しい試験のようであるが、実際は通知表での及第の基準のほうが厳しいらしく、通知表で「及第」を得、国家試験に臨んだ生徒のほとんどが卒業できるらしい。

教会の役割

以上が、私が見たイタリアの中学校の日本では見られない様子である。

最後になるが学校の外のイタリアらしい様子を一つ紹介したい。我が家の近所の教会は、教会区に住む中学生対象に教会の集会所を利用して「宿題の会」を開いている。

勉強を教える側の人たちは、この教会区の退職したかつての教師、及びボランティアの高校生、（イタリアの高校はボランティア活動に参加していたら通知表の点数に上乗せしてもらえるという、クレジット制と呼ばれるシステムがある）そして教会の神父だ。学べるのは教会区に住居する中学生。

希望者が多い場合だが両親がイタリア語をわからない外国人の子どもたちを優先とする。したって異教徒が多い。参加費は年間 4000 円。週に 2 回、2 時間ずつ宿題をベースに学習できる。参加する生徒が学校で悪い成績をとり、学校に親が呼び出される場合などは、「宿題の会」の先生も同行し、今後の対策を一緒に考えてくれる。我が家の中学 1 年生の息子も「宿題の会」でお世話になっている。カトリックの信者でもない、しかも授業で「宗教」の授業も選択していないというのに、ありがたい話である。彼は週に 1 回、その教会が主催するサッカースクール（年会費 1 万円、ユニフォーム支給あり）にも通っている。

＜付録＞

ローマの中学校・美術室（2006 年秋；嶺井撮影）